

トビウオ通信 (H28 第 1 号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-23-4806)

《平成 27 年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業 (かけまわし)

1 隻当り漁獲量・金額とも平年を上回る

島根県の小型底びき網漁業(かけまわし)44 隻*の平成 27 年漁期前半(平成 27 年 9 月 1 日～12 月 29 日)の総漁獲量は 2,134 トン、総水揚げ金額は 9 億 9695 万円でした。1 隻当たり漁獲量は 49 トン、水揚げ金額は 2,292 万円で、漁獲量は平年並みでしたが、水揚げ金額は平年を 17% 上回りました。前年に比べると漁獲量で 12%、金額では 25% 上回りました。

* 当漁業における島根県全体の操業隻数は 45 隻ですが、統計は 44 隻分の集計です。平年は過去 10 年平均。

ソウハチ 平年を下回る

主要魚種であるソウハチの 1 隻当たり漁獲量は 5.1 トンで、前年の 9 割、平年の 8 割の水揚げに留まりました。ムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 1.7 トンで、平年の 7 割の水揚げに留まりました。また、メイタガレイの 1 隻当たり漁獲量は 0.9 トンで、平年の 1.1 倍の水揚げになりました。

ケンサキイカ不漁、ヤリイカが急増

ケンサキイカは秋漁が低調に推移し、1 隻当たり漁獲量は 0.9 トンで平年の 3 割の水揚げに留まりました。一方、ヤリイカの 1 隻当たり漁獲量は 7.8 トンで、前年の 3.4 倍、平年の 6.3 倍の水揚げとなり、漁獲が急増しました。

アカムツ 平年並み

アカムツの 1 隻当たり漁獲量は 1.9 トンで前年の 1.9 倍、平年の 1.1 倍の水揚げとなりました。また、キダイの 1 隻当たり漁獲量は 3.4 トンで平年の 7 割、アンコウの 1 隻当たり漁獲量は 3.8 トンで平年の 9 割、ニギスの 1 隻当たり漁獲量は 4.8 トンで平年の 8 割の水揚げに留まりました。

アナゴ類が好調

その他の魚類として、マダラの 1 隻当たりの漁獲量は 3.9 トンで、前年の 6 割、平年の 1.3 倍の水揚げとなりました。また、アナゴ類の 1 隻当たりの漁獲量は 3.3 トンで、前年の 1.3 倍、平年の 1.7 倍の水揚げとなりました。

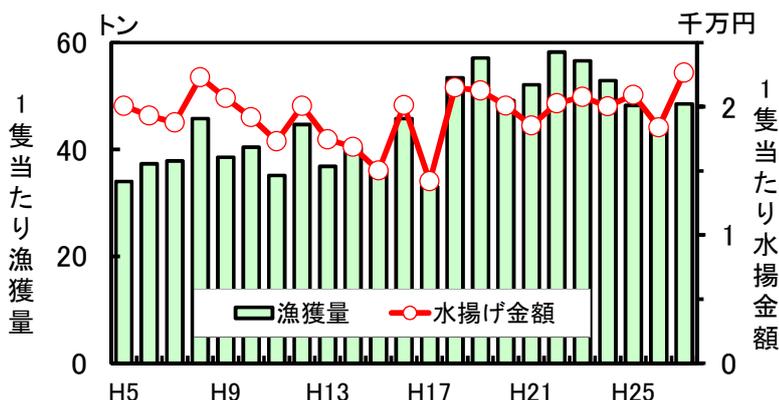


図 1 小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量・水揚げ金額の動向(9～12 月)

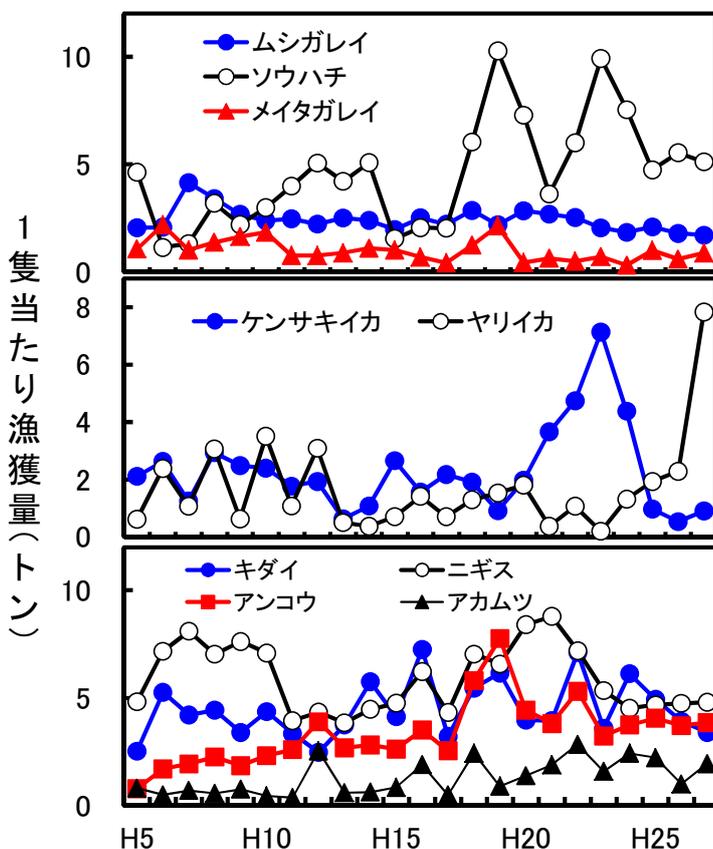


図 2 小型底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(9～12 月)

沖合底びき網漁業（2 そうびき）（県西部）

1 統当り水揚金額 平年を上回る

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（5ヶ統）の平成 27 年漁期前半（平成 27 年 8 月 16 日～12 月 29 日）の総漁獲量は 1,568 トン、総水揚金額は 8 億 1,431 万円でした。1 統当たりでは、漁獲量 314 トン、水揚げ金額 1 億 6,286 万円で、平年に比べ量は 3%、金額は 11% 上回りました（過去 10 年平均 305 トン、1 億 4,612 万円）。

ムシガレイ・ソウハチ 平年下回る

主要魚種であるムシガレイの 1 統当たり漁獲量は 43 トンで、前年並みの水揚げでしたが、平年の 8 割の水揚げに留まりました。ソウハチの 1 統当たり漁獲量は 16 トンで、前年の 6 割、平年の 7 割の水揚げに留まりました。また、ヤナギムシガレイの 1 統当たり漁獲量は 8 トンで前年の 1.3 倍、平年の 8 割の水揚げでした。

ムシガレイは 10 月と 12 月の水揚げが平年の 6～7 割程度と少なく、またソウハチは 11 月の水揚げが平年の 5 割しかなかったことが平年を下回った大きな要因です。

ヤリイカが増加傾向

ケンサキイカは前年同様秋漁が低調に推移し、1 統当たり漁獲量は 18 トンで、前年の 2.8 倍、平年の 7 割の水揚げに留まりました。一方、ヤリイカの 1 統当たり漁獲量は 9 トンで、前年の 1.3 倍、平年の 3.0 倍の水揚げとなりました。ヤリイカは特に 11 月以降漁獲量が増加しました。

キダイ・アカムツ好調！

キダイの 1 統当たり漁獲量は 35 トンで、前年の 9 割、平年の 1.3 倍となりました。今期は中～大サイズ（レンコダイ銘柄）が漁期を通じて好調な水揚げでした。

アカムツの 1 統当たり漁獲量は 21 トンで、前年を上回り、前年の 1.5 倍、平年の 2.0 倍の水揚げとなりました。今期も前期同様に小型サイズ（メッキン銘柄）が多く、漁獲量の約 8 割が小型サイズでした。

その他、アナゴ類の 1 統当たり漁獲量は 22 トンで前年並み、アンコウの 1 統当たり漁獲量は 20 トンで平年の 9 割の水揚げとなりました。マトウダイの 1 統当たり漁獲量は 11 トンで、平年の 1.3 倍、マダラの 1 統当たり漁獲量は 6 トンで平年の 1.8 倍の水揚げがありました。

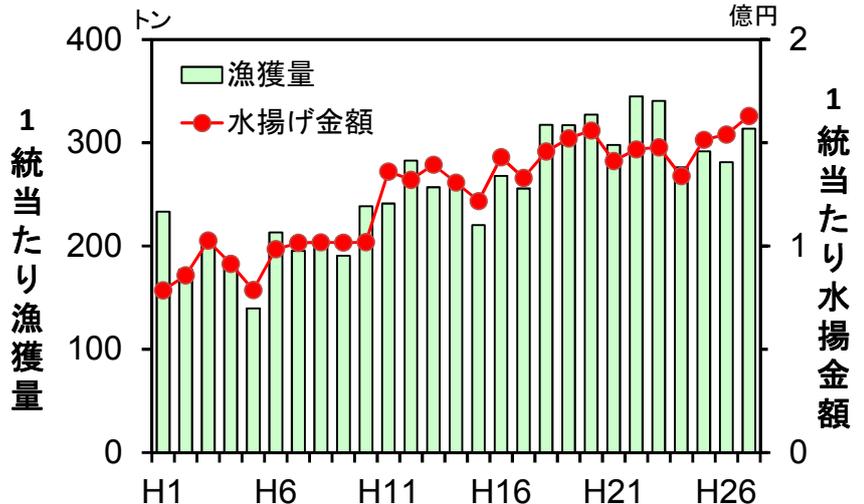


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における 1 統当たり漁獲量と水揚げ金額の動向(8～12 月)

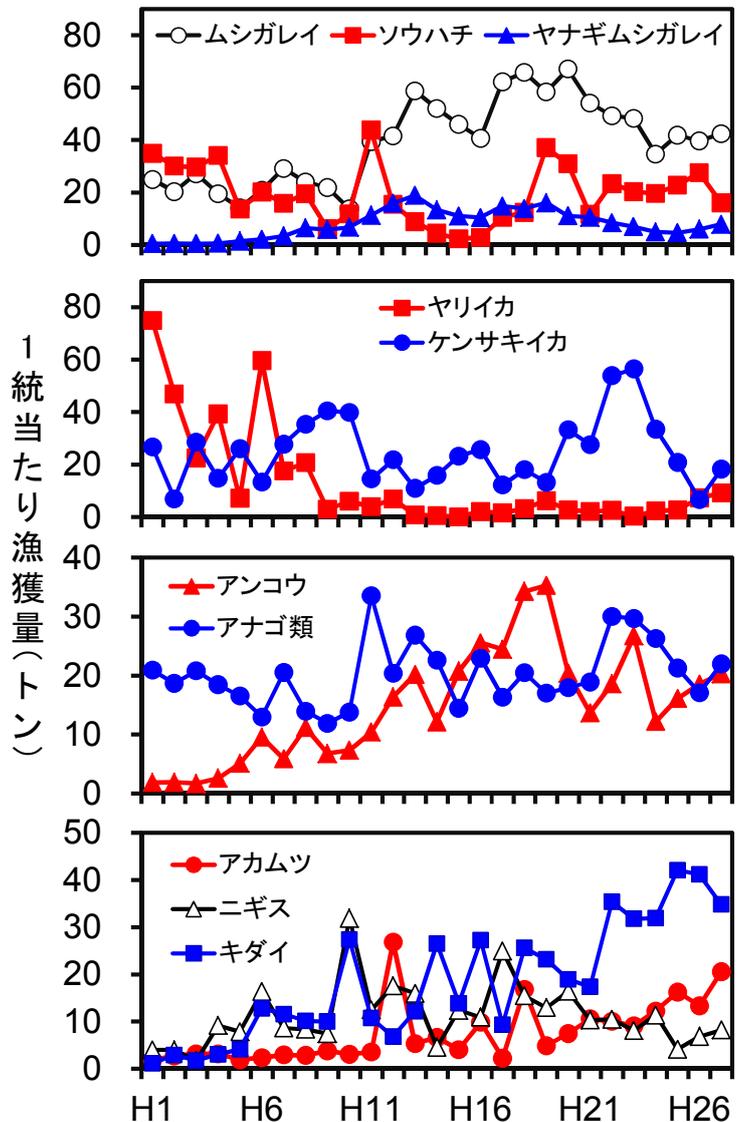


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における 主要魚種の漁獲動向(8～12 月)